自分が好き　友だちが好き　このまちが好き　　横浜市立下野谷小学校

since 1926

学校だより 11月号

令和２年１１月９日

目の輝き

校長 高橋 義成

今年度は規模を縮小してのミニリンピックを実施しました。昨年度の３月から様々な行事も見直さざるを得なくなり、学校生活が再開した後も、子ども同士のかかわりを必要以上には増やせない日々が続いていました。授業でも、もっと対話的な活動を増やして思考力・判断力・表現力を育成したいところですが、活動も限定されてしまう場面もかなり見られます。そんな中、工夫しながら少しずつ行事を実施してきました。本物体験をしたり、学年の目標に向かって協力しながら取り組んだりすることで、一人ひとりに新たな目標が生まれ、着実な成長につながっていきます。

下野谷ミニリンピックでも、随所に子どもたちの輝きが見られ、教職員の私たちにも明るさと喜びを与えてくれました。１・２年生の部では、開閉会式の進行において、高学年に負けない立派な姿が見られました。「来年は１年生の司会でやってみようか。」と思わせるすばらしさでした。１年生は徒競走で９０ｃｍのコース幅を守って全力で駆け抜けました。２年生は、「よういー！」の合図でピタッと静止することが安定してできていました。これは簡単なことではありません。３年生は、初めてカーブを走りましたが、コースを守って加速する姿は見事でした。低学年では、カーブで外側に膨らむことも多いのですが、３年生はさすがでした。４年生のエイサーは、短い指導時間にもかかわらず足先からバチの先まで神経が通っているようでした。５年生は、６年生よりも２０人少ないのですが、それを感じさせない演技の迫力が印象的でした。６年生は最後の運動会をとなりました。ソーラン節はミニリンピック２日前の木曜日には、ある程度演技は完成していたように思いました。そこから、当日までやれることを全力でやるのだと気合を入れて更に練習を重ねていました。６年生になると、行事の意味が分かっているのだと感心しました。目の前のその瞬間に、歯を食いしばって全力を出そうとする子どもの目は、まぶしく輝いております。その姿に心は揺れ動かされます。一生懸命に取り組むすばらしさを改めて皆で確認した心温まる一日になりました。

保護者の皆様には普段と違う動きをお願いしましたが、多くのご協力をいただきました。おかげさまで、例年と変わらない感動を共有することもできました。また、PTA の役員や委員の皆様には、早朝から終了後の片付けまで様々なご支援をいただきありがとうございました。一人ひとりのお子様が健やかに成長されていることは、皆様の日々のご苦労の賜物です。

保護者の皆様、また一回りお子様が成長されましたこと、おめでとうございます。